

「産学官連携推進グリーンイノベーション研究会」開催

2021年2月5日、宮城県とトライボロジー融合研究会の主催による標記行事がオンライン配信で行われました。宮城県産業技術総合センター所長 大崎博之氏からのご挨拶と当研究会栗原和枝会長からの全体概要説明の後、東北大学研究推進・支援機構URAセンター特任准教授(上席URA) 堀野秀幸氏が座長となり、9件の講演が行われました。当日視聴は49サイト(企業24、大学等18、研究機関4、個人3。1サイトで複数名視聴の可能性あり)でした。(各講演の概要はpp.2-3をご覧ください。)



堀野秀幸氏

挨拶 宮城県産業技術総合センター 所長 大崎博之氏

日頃より、宮城県の産業振興にご理解とご支援を賜り、お礼申し上げます。本研究会は、令和2年度に宮城県が立ち上げた「素材先端技術活用推進事業」の一環として開催します。本事業はあらゆる産業に関わる摩擦・摩耗を中心に、地域学術機関が有する技術シーズを、当センターが橋渡しをして地域ものづくり企業に展開することにより、製品の高性能化や高機能化、新技術の導入による生産プロセスの改善を目指すものです。本日は、グリーンイノベーションに向けた様々な技術についてのご講演をいただく予定であり、最先端のお話を伺えることを個人的にも楽しみにしています。オンライン開催ではありますが、皆様から積極的なご質疑をいただき、実り多い研究会となることを祈念しております。



全体概要 トライボロジー融合研究会 会長 栗原和枝氏

本研究会を宮城県と共同で開催させていただき、光栄です。宮城県が昨年末に発表された「新・宮城の将来ビジョン」(2021-2030年度)には、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)がブレイクダウンした形で書かれており、感銘を受けました。私たちは、「輝く東北のために」という目標を掲げ、大学の研究成果を地域に生かしていただきたいと活動しています。東北地方は自然エネルギーの導入率が高く、農林水産業がさかんで自然資源も豊かですが、農林水産業の生産性向上とものづくり企業の競争力強化が求められていると思います。そこで、本研究会では、エネルギーロスゼロを目指す摩擦研究と蓄電池の技術、農水産物を食品と素材として使い切る技術を取り上げることとしました。なお、トライボロジー融合研究会では、技術相談など様々な活動をしておりますので、興味をもたれたら気軽にご相談ください。



主催者を代表して

日頃より県政の推進に御支援と御協力を賜り、お礼申し上げます。県では、あらゆる産業に関わる摩擦や摩耗、表面状態等を扱う分野である「表面・界面制御技術」を核として地域ものづくり企業の競争力向上を推進する「素材先端技術活用推進事業」を今年度から実施し、地域企業への技術普及と活用促進の活動を行っているところです。

本研究会は、その一環としてトライボロジー融合研究会との共同で開催し、講演では、グリーンイノベーションをキーワードに講師の方々の取組を広く紹介いただくことができました。今回の研究会をきっかけとして、県内企業との新たな連携が生まれ、地域産業の成長・競争力向上につながることを期待しております。



宮城県経済商工観光部 新産業振興課長 石川佳洋氏